

平成27年度 学校評価報告書

三重県立四日市工業高等学校（全日制）

（1）学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

部	1 行動計画の目標・評価方法	2 達成状況・評価結果【達成率%】	3 具体的取組に関する成果や課題	
総務部	1 防災への意識を高め万一の事態に備えます。 (1) 巨大地震が発生し津波避難を想定した防災訓練を実施します。(防災訓練1回) (2) 緊急連絡のシステムを整備します。	90% 100% 90%	(1)本年度は地震による火災を想定した防災訓練とした。避難場所サイトの周知やアンケートで生徒の意識を高めた。消防署の協力を得、効果的な訓練を行うことができた。 (2)「きずなネット」利用できるようにした。	(1)防災訓練に先駆けて、スマートフォンや携帯電話を利用して、避難場所を検索できるサイトを生徒に配布した。このことで、生徒の防災への知識も深まった。 (2)中部電力の「きずなネット」のメール配信サービスを利用できるようにした。「きずなネット」の100%の加入を目指す。
	2 人権感覚あふれる学校づくりを目指して人権教育に取り組めます。 (1) 人権LHRを1学期と2学期に全学年で取り組みます。 ① 1学期は学年別テーマで実施し、1年生は仲間づくり・障がい者問題、2年生は沖縄への修学旅行に向けて平和学習、3年生は全国高等学校統一用紙に取り組みます。 ②2学期は全学年を統一テーマにし、さまざまな差別について、身近な人権問題としてとらえ、自ら考え判断し行動できるよう話し合いを中心としたLHRを実施します。 ③ 1年生入学後すぐに、スマートフォンの使用に関する啓蒙活動をおこなう。 ④ 保護者向けに、スマートフォンの使用に関する啓蒙活動をおこなう。	96.2% 100% 100% 100% 100%	(1) ①学年別テーマごとに人推委員会で十分に検討して取り組むことができた。 ②子供の人権条約の内容や価値の認識を深め、戦争の悲惨さを知ることができた。 ③1年生に対して、スマートフォンによるトラブルを回避するための啓発活動を実施した。また、全学年に対してLINEのトラブル回避するための啓蒙活動を実施した。 ④保護者向けに、スマートフォンの使用に関する啓蒙活動を実施した。	(1) ①学年によっては時間が不足する場合もあった。来年度以降の時間配分を検討する必要がある。 ②生徒も映像や写真を交えた講演を興味深く聞いていた。また、話題のテーマであったため生徒たちも意欲的に取り組んだ。 ③現在の厳しい状況を伝えることができた。 (2)他の行事と重ならないように、全校の予定を把握しておく必要がある。 (3)いじめアンケートの文言について、より精査して行う必要がある。 (4)人権だよりは、あまり発行できなかった。次年度は更なる充実を図り多くの生徒に人権意識を持ってもらいたい。 (5)来年度も、効果的な研修を計画したい。
	(2) いじめアンケートを年3回行います。 (3) 人権教育を計画的・継続的に推進するため、人権教育推進委員会を開催します。(人権教育推進委員会年間10回) (4) 教職員向けの通信は朝の打ち合わせ、desknet'sによる配信など教職員間の情報の共有を図ります。人権だよりを通して人権の啓発や情報の発信を年4回行います。(適宜) (5) 教職員の人権意識を高めるために、研修会を開催します。(研修会の開催2回以上)	100% 100% 70% 100%	(2)6、9、2月に実施し、記入された全事案について状況を確認し未然に対応した。障がい者問題に関するアンケートを実施した (3)定期的また臨時で委員会を実施し、人権教育を計画的・継続的に推進できた。 (4)職員向けに公開人権LHRや講演会の情報を共有した。人権だよりを発行し啓発した。 (5)7月に人権プラザでのフィールドワークを実施した。11月には人権LHR前に子供の権利条約および障がい者に関する現職教育を実施し、生徒への指導を効果的にできた。	(6)来年1年間を通して、障がい者差別に対する取り組みを行いたい。
	3 保護者との連携を深めます。 (1) PTA活動を充実します。 ① 役員会を5回以上実施します。 ② PTA研修視察を行います。 ③ 各研修会に積極的に参加しPTA会報等で還元します。 (2) 総会後の学年懇談会を充実させ、今後の学校の取組にも反映させます。	100%	(1)①定例の内容を計画通りに実施できた。役員との意見交換も充実した。 ②研修会を中心に充実した内容で実施した。 ③研修会には役員が中心に参加することにより、今後の活動につながると思われる。 (2)スムーズに懇談会を運営できた。懇談会後に報告会を実施し、課題に対応した。	
	1 生徒に「力」をつける環境づくりのため、年間300時間におよぶ自習課題時間を、授業変更や特別時間割の作成により、授業時間の確保に努めます。また、課題処理となった場合、クラスにより偏りが出ないようにも努めます。 2 教務処理の運用を、現行の業務に照らし合わせ効率的で円滑な運用を目指し、校務処理の最適化に努めます。また、特A情報の管理の徹底を促します。	60% 80%	1 特別時間割の作成及び時間割変更を積極的に行った結果、昨年度の実績を維持することができた。課題処理のクラスの偏りは、改善することができなかった。 2 共有ホルダを活用して業務の簡素化が図られた。総合認証システムへの参加にあたっては、業務への支障を最小限にとどめた。	1 自習課題の時間数としては削減できたが、現状の学校行事において、教務処理としては限界であり、授業時間確保のためには、根本的な見直しが必要である。 2 共有ホルダの効率的な活用できている反面、情報管理の面では課題が残った。
	1 基本的な生活習慣の確立についての取り組み (1) あいさつ運動を生徒会執行部と4、9、1月に実施します。 (2) 頭髮服装検査を各学期の初めに実施します。再々検査	100% 99%	(1)各学期初めや登校指導時に実施した。 (2)2学期に3年生1名、2年生1名の再々	(1)「元氣な四工」には、まだまだ挨拶が十分に感じられないのでより一層の取り組みが必要である。 (2)生徒に理解させ、担任団や家庭との連絡を密にして、再検査

指 導 部	の人数を各学年「0」を目指します。 (3)遅刻指導を各学期の終わりに実施します。	100%	検査を出した。 (3)各学期終わりに実施した。	での全員合格を目指す。 (3)2学期の遅刻数が多く、寝坊等の不注意に対する指導が必要。
	2 交通事故防止の指導の取り組み (1)登校指導を年間4回教職員全体で実施し、交通マナーの順守を徹底します。	100%	(1)年4回実施した。	(1)交通違反の生徒が「0」にならない。今後も全体として取り組みが必要。
	(2)自転車通学のマナー向上のための講話・指導を行います。(各学期2回以上)	100%	(2)各学期の朝会の時間を使って、マナー向上、事故時の対応について講話指導を行った。	(2)自転車通学者についての指導が必要。また、四日市駐輪場付近や塩浜駅周辺の通学者については、別途で対応が必要。
	(3)自転車通学の安全のため、自転車点検を4月と3月に実施します。	100%	(3)年2回実施した。また、不合格者について4月に不備を直させた。	(3)追加登録の生徒については、その度毎に点検を行い、不備がないよう徹底できた。
進 路 導 部	3 環境美化活動への取り組み (1)各学期に大掃除を行い、年度末には教室及び各科棟の整美を行います。長期休業中も学校の美化に努めます。	70%	(1)大掃除、教室整美はしっかりできた。長期休業中、汚れているときには運動部に協力してもらい、美化に努めた。	(1)長期休業中の廊下、階段やトイレについて、掃除の徹底ができなかった。今後課題として検討が必要。
	1 職業観・勤労観を醸成するため、キャリア教育を進めます。 (1)進路講話(保護者全体説明会含む)・進路ガイダンス・卒業生との懇談会等を実施します。 (2)インターンシップを推進します。	100%	(1)従来、科別で行われていた卒業生との懇談会を別の科の卒業生とも懇談が可能になるようにした。5月に1年生進路ガイダンスを実施。12月には10社の企業説明会による1・2年生進路ガイダンスを実施した。	1 生徒に対し、具体的で正確な企業情報や、企業研究の方法等を提供できた。特に12月の進路ガイダンスでは、企業紹介や業務説明のみならず、高校生が応募する職種の説明や、本校の卒業生がどのような仕事に携わっているのかを聞くことが出来、働くことの理解や仕事内容が想像でき、生徒の進路選択の幅を広げさせることができた。1年生も参加させたことで、より多くの企業情報の収集と早期の職業観の確立が可能になった。
図 書 部	2 進路決定と将来の生活への適応を目指します。 (1)企業訪問の強化を図ります。(企業訪問100社以上) (2)面接指導等に取り組みます。	50%	(2)従来インターンシップに参加しない科に新規企画を提案することができなかった。	2 多数の企業訪問や企業来校時の面談情報などを集めるとともに、その情報をWeb上で公開することにより教職員間での情報共有を図り、企業の今年の採用動向や採用したい生徒の条件などの早期情報提供を行い、的確な進路決定に貢献した。
	(1)企業訪問の強化を図ります。(企業訪問100社以上) (2)面接指導等に取り組みます。	100%	(1)10月中旬までに企業訪問100社を超えることが出来た。また、ネットワーク上での情報共有を図った。 (2)全職員での面接指導を実施した。	
図 書 部	1 図書館の利用促進に努めます。 (1)年間貸出数(生徒)6000冊を目指します。 (2)広報活動の充実に努めます。 ①図書館便りを月1回発行 ②ホームページを年間3回更新 (3)生徒主体のキャンペーン企画を実施します。 (4)生徒と積極的にコミュニケーションを図り、読書の手助けをします。	100%	(1)生徒貸出冊数7135冊(2月末現在) (2)①図書館便り(毎月1回)、新着図書情報を発行した。 ②每学期ホームページの更新を行った。	1 図書館便り、新着図書情報等による継続的な広報活動は、図書館の活用促進に一定の効果を及ぼしている。さらなる内容の充実が望まれる。企画したキャンペーンには多くの生徒が参加し、図書館の活用促進につながった。文化祭の参加企画は生徒図書委員会を中心となって企画・運営し、多くの一般生徒を集める楽しい催しとすることができた。保護者の方にも参加していただけた。今後も生徒が主体的にかかわれる企画を年間を通じて実施していくことが大切である。
	2 様々なニーズに対応できるよう、資料の収集に努めます。 (1)各教科・分掌の推薦により、授業や資格取得に有用な図書を購入し、資料の充実に努めます。 (2)生徒のリクエストを受け、そのニーズに対応します。	100%	(3)読書DEポイントキャンペーン、秋の読書キャンペーン、クリスマスキャンペーンなど、生徒参加型の企画を実施した。	
保 健 部	(1)各教科・分掌の推薦により、授業や資格取得に有用な図書を購入し、資料の充実に努めます。 (2)生徒のリクエストを受け、そのニーズに対応します。	95%	(1)各教科の推薦図書コーナーや修学旅行に合わせて沖縄に関する図書を集めたコーナーを設け、生徒に紹介した。 (2)リクエスト件数 92件 (内、対応できた件数 87件)	(1)教科のみならず、学年や分掌とも連携し、様々なニーズに対応した資料収集に努める必要がある。 (2)リクエスト制度の周知徹底に努め、より多くの生徒が制度を有効に活用できるようにする。
	1 保健便り「すこやか四工」を発行し、健康への関心を高めます。また、生徒保健委員会による保健だよりを4回発行し、生徒自身が健康について考える機会とします。	75%	1 保健便りを5月以降、月に1回以上発行できている。また生徒保健委員会による保健便りも2回発行した。	1 今年度は、養護教諭による保健便りだけでなく、保健委員会の生徒が作成した保健便りも発行し、より生徒の興味関心を高めることができています。
	2 学期に一回「学校保健委員会」を開催し、学校医との連携・情報交換を密にします。(年4回開催予定)。	75%	2 学期に1回(年4回)の学校保健委員会を開催した。	2 次年度も学期に1回(年4回)開催することで学校医との連携を図り、内容についても、生徒に還元できる内容とする。
	3 集団指導として、薬物乱用防止講話、性に関する講話を年1回ずつ実施します。	50%	3 薬物乱用防止講話を6月に実施し、性に関する講話を12月に実施した。	3 毎年、講師を変えることで(薬物乱用防止であれば、保健所→税関→警察)、新鮮味のある講演とすることが出来ている。
	4 学期に1回安全点検を実施する。危険箇所について、生徒・職員に周知徹底し、事故防止に努めます。	65%	4 学期に1回(年3回)の安全点検を実施している。	4 生徒の安全上、危険箇所として報告を受けた場合は、学校内で連携して事故防止に努めることができています。
	5 教育相談を係によって実施し、必要に応じ、カウンセラーにつなげます。	80%	5 希望者にはカウンセラーによる教育相談を実施している。	5 カウンセラーの来校が月1回のため、希望に応じられないこともある。
6 特別支援教育推進委員会を年5回開催し、職員が一致して支援を行えるように情報共有を図ります。	60%	6 委員会を12月までに4回実施。校務フォルダの作成を進めている。	6 校務フォルダは作成したが、職員に見てもらえていない。	

(2) 組織の状態の評価結果

アセスメントから明らかになった状況	
強み	1 生徒は多くの資格取得に積極的に取り組み大きな成果をあげている。各資格の担当者の放課後や休日の指導が実を結んでいる。
	2 部活動が活発であり、優秀な成績を上げている。運動部だけでなく、文化部や各科の「ものづくり活動」においても全国大会に出場するなど、優秀な成績を残した。
	3 進路指導が充実し、卒業生全員の就職が内定するとともに進学が決定し、進路保障がされている。
	4 分掌、工業科、学年間の連携がスムーズになり、教職員間の情報共有ができてきているため、組織としての意識が強まり、学校全体での取組が円滑にできるようになりつつある。
弱み	1 サーバーの運用が確立され、機器管理的な問題は少なくなったが、依然として十分に使いこなせているとは言い難く、引継ぎ等がスムーズにできないケースがある。
	2 7科24学級の大規模校であり、生徒数が多く、学校の取組みや指導が生徒や家庭に伝わりにくい。
	3 情報共有のため、委員会等が多くなり、教職員の放課後の時間確保が少なくなっている。

(3) 学校関係者評価委員会の実施状況結果

学校関係者評価委員会の実施内容等	
<実施回数> 3回	
実施内容	1 学校側から、全日制、定時制の生徒の様子、進路状況、施設設備の整備状況、及び近況報告を行いました。
	2 平成27年度の学校経営の改革方針についての概要説明を行いました。
	3 キャリア教育の取組について、「インターンシップ」「進路ガイダンス」「日永小学校ものづくり体験」などを見学し、意見や感想をいただきました。
	4 学校経営の改革方針等に基づく取り組みについて、学校関係者評価を実施し、次年度への提言をいただきました。

(4) 学校関係者による評価結果

学校関係者評価から明らかになった改善課題	
関係者評価	1 キャリア教育プログラムの一環として、卒業後の進路について、進路ガイダンスを実施し、1年生から生徒に意識を持たせ、3年間を見通して取り組める体制が確立している点が評価できる。進路ガイダンスに招く企業は、中小企業も含めてバランスをとるなど、キャリア教育がさらに充実するよう進めてもらいたい。
	2 今年度は、ものづくり等教科活動においても大きな成果があった。各種活動に対する支援について、同窓会としても強化させていただくことを検討したい。
	3 学校と地域とのつながりが徐々に深まり、地域住民として四日市工業高校生と話しやすくなり、距離感が詰まってきたように感じる。地域行事への参加や奉仕活動など、四日市工業高校生に益々期待したい。
	4 日永小学校ものづくり体験は、生徒の学習内容を深め、工業学習に誇りを持たせるとともに、小学校のキャリア教育にも活用できるという意義がある。工業教育の魅力を小学生や保護者に発信する絶好の機会として、今後に期待したい。
	5 生徒の防災意識を高めるためにも、防災面で災害時を想定した地域との調整が必要である。

(5) 組織力向上のための取組（改善策）

次年度に向けた取組	
1 キャリア教育プログラムを活用したキャリア教育を体系的に進め、進路保障の面で更に充実した取組を行います。	
2 生徒・教職員それぞれの人権を大切にし、いじめ、差別、体罰のない学校づくりを進めます。	
3 平成29年度よりすべての県立高校で導入されるデータ管理システム（「三重県統一校務支援システム」）の試験的導入に学校として取り組み、適切なデータ管理の検証を行います。	